



Japan Display Inc.

2021年度 第2四半期
決算説明資料

2021年11月12日

株式会社 ジャパンディスプレイ



PersonalTech

For A Better World



Japan Display Inc.

2021年度 第2四半期 サマリー

- 半導体逼迫影響の抑制、需要増加の取り込みと部材コストの売価への転嫁等により、売上高が拡大し、営業損失は予想から大幅に縮小
- 新製品の順次開発に加え、次世代の高付加価値製品開発も順調に進展
- サステナビリティと脱炭素化に向けた取組みを更に強化し、「国連グローバルコンパクト」、Apple社再エネ100%に新規参加
- INCJからの借入金200億円を返済、有利子負債を減少し財務体質を改善
- いちごトラストによる新株予約権の追加行使により、自己資本を増強

需要は旺盛な一方、半導体逼迫、部材インフレ、グローバル・サプライチェーンの混乱は深刻

モバイル/欧米

- OLED採用の拡大により、**スマホ用液晶の需要は漸減**

現在



今後



モバイル/中国・他

- 半導体逼迫の影響により、**スマホ用液晶の需要は不確実性が増加中**



車載

- 半導体逼迫の影響にもかかわらず、**当社は高付加価値製品を展開し、堅調を維持**



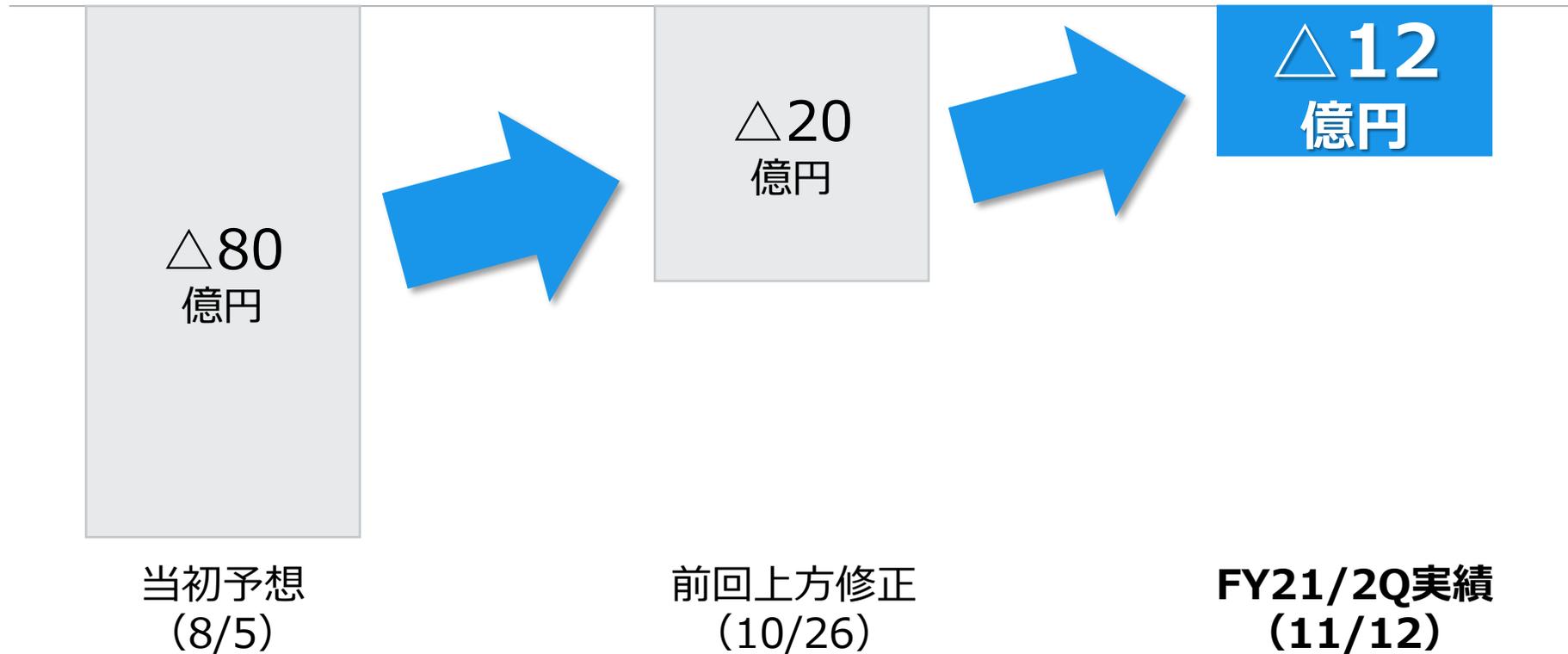
ノンモバイル

- 健康管理や生活様式の変化に伴う需要が増加、半導体逼迫の影響はあるが、**ウェアラブル用OLEDやVR用の需要は好調**



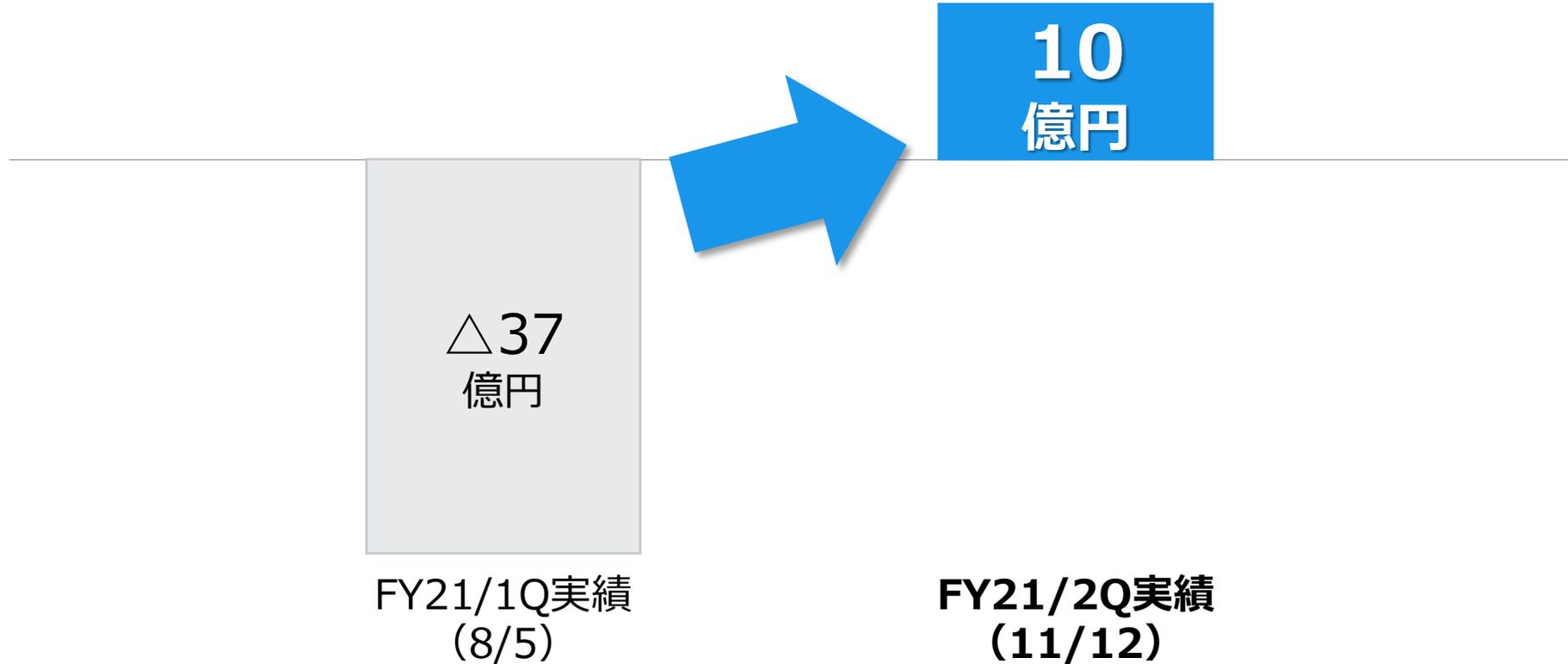
半導体逼迫影響の抑制、需要増加の取り込みと部材コストの売価への転嫁等により、
2Q 営業利益は当初予想から大幅に改善し $\Delta 12$ 億円の実績

2Q 営業利益 $+68$ 億円 改善 (当初予想比)



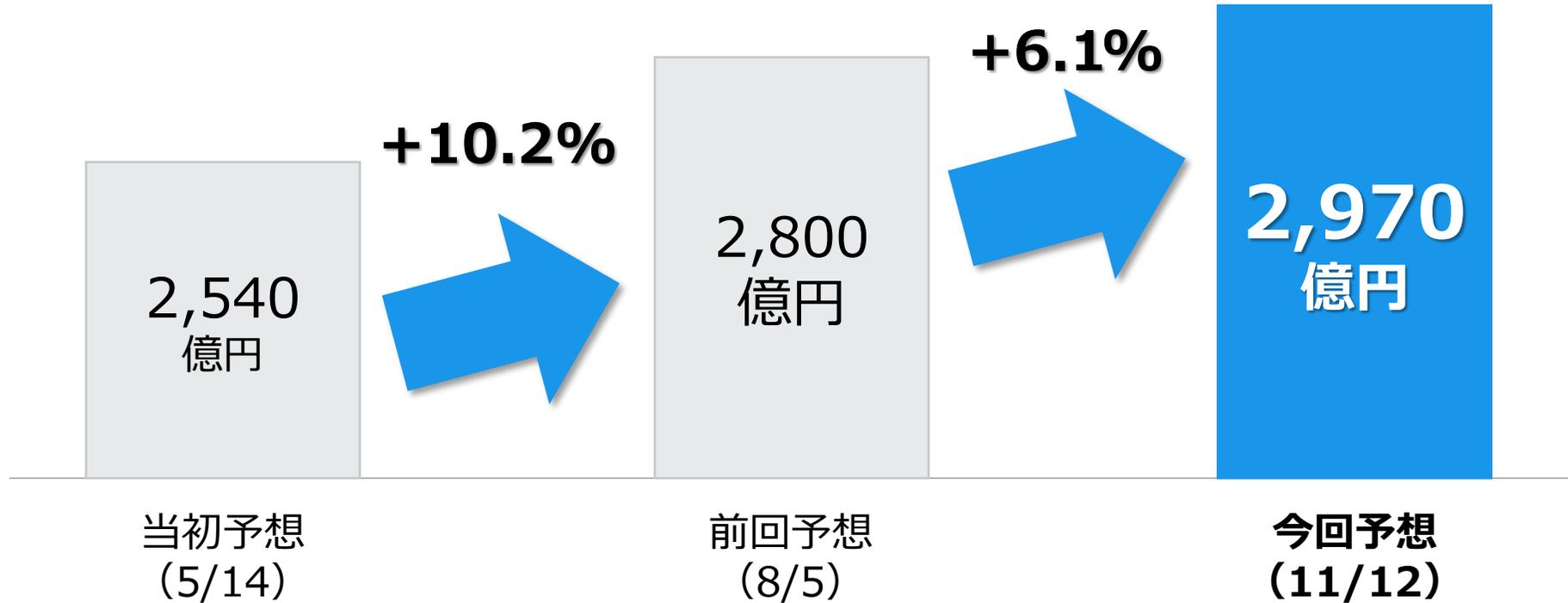
2Q EBITDAは1Q実績から大幅に改善し、黒字化

2Q EBITDA **+47**億円 改善 (1Q実績比)



当期2回目の上方修正

通期売上高予想 **+16.9%** (当初予想比)



SDGs実現に向けた社会課題への積極的な取組みにより、持続可能な社会の実現に貢献

「国連グローバル・コンパクト」

- ◆ 「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に参加
- ◆ 併せて、UNGC に署名している日本企業・団体に構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）」に加入

国連グローバル・コンパクト 10原則

人権	原則1： 人権擁護の支持と尊重 原則2： 人権侵害への非加担
労働	原則3： 結社の自由と団体交渉権の承認 原則4： 強制労働の排除 原則5： 児童労働の実効的な廃止 原則6： 雇用と職業の差別撤廃
環境	原則7： 環境問題の予防的アプローチ 原則8： 環境に対する責任のイニシアティブ 原則9： 環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10： 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

<参考>

UNGC（英語）：<https://www.unglobalcompact.org/>

GCNJ（日本語）：<http://ungcjin.org/>

再生可能エネルギー

- ◆ Apple社の再生可能エネルギー100%に参加



Supplier Clean Energy Commitments

On October 27, 2021, Apple announced it had doubled supplier commitments to making Apple products with 100 percent renewable energy—with more than 100 new supplier commitments in the last year and a half, including every supplier working on final assembly of Apple’s newest products. The following lists all suppliers committed to 100 percent renewable energy for Apple production.

- | | | |
|---|---------------------------------|--|
| • II-VI Incorporated | • Compeq | • I-PEX Inc.* |
| • 3M | • Concraft* | • Infineon Technologies AG* |
| • Advanced International Multitech | • Cooler Master Co., Ltd. | • Intramedia* |
| • AKM Meadville Electronics | • Corning Incorporated | • ITM Semiconductor Co., Ltd. |
| • Alpha and Omega Semiconductor Limited | • COSMO | • J. Pond Industry (Dongguan) Co., Ltd.* |
| • Alps Alpine* | • Cowell Optic Electronics Ltd. | • Jabil |
| • Amagasaki Seikan* | • CymMetrik | • Jarlytec* |
| • Amphenol | • Daesang | • JDI* |
| • Arkema | • Derkwo* | • Jiangsu Gian* |
| • ASE Technology Holding | • Dexerials Corporation | • Jiangsu Kangni Holding |

<参考> Supplier Clean Energy Commitments :

https://www.apple.com/environment/Apple_Supplier_Clean_Energy_Commitments_October-2021.pdf

追加行使により資本を増強、未行使残110.8億円

◆行使内容

行使した新株予約権	第12回新株予約権（'20/8発行）
行使価額総額	554.0億円
行使日	'21/9/22
行使価額	1,000万円/株
行使価額	83.1億円
交付株式の種類	E種優先株式
未行使残存額	110.8億円

◆いちごトラストの議決権比率

発行済株式	株式数 (千株)	議決権数 (千個)	いちごトラスト 保有
普通	846,166	8,461	—
B種優先	672,000	6,720	保有
D種優先	0.5	0	保有
E種優先	4.4	0	保有
合計		15,181	

議決権比率（21年9月末現在）	44.27%
-----------------	--------

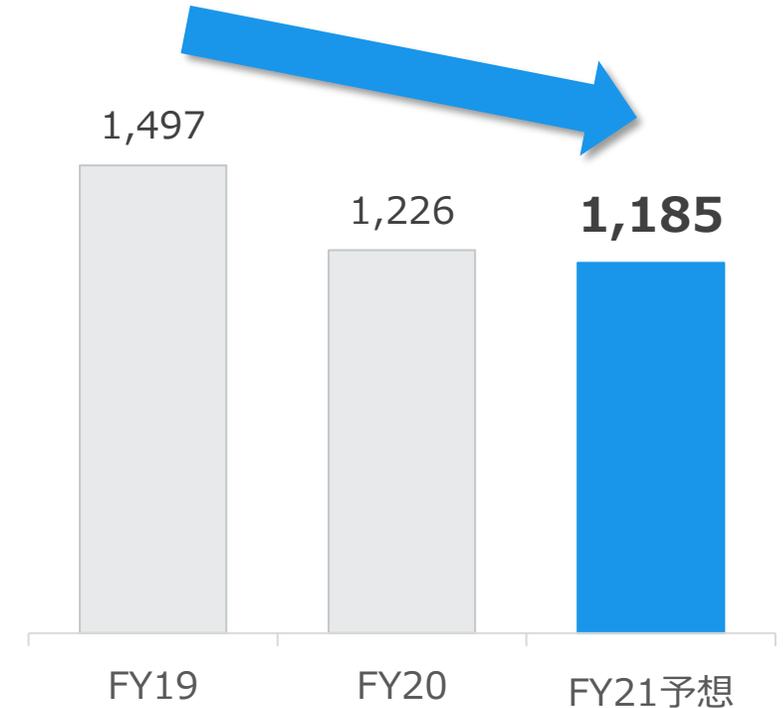


(注) 左図の全部行使後の純資産額には損益を反映しておらず、実際の純資産額とは異なります。

徹底的なコスト削減により、黒字体質に向けて体幹を強化

固定費 FY21年間 約 **21%** 削減 (FY19比)

- **製造**：生産性改善・歩留り改善によるスループット最大化
- **全社**：販管費・間接経費の最小化、共通業務の効率化

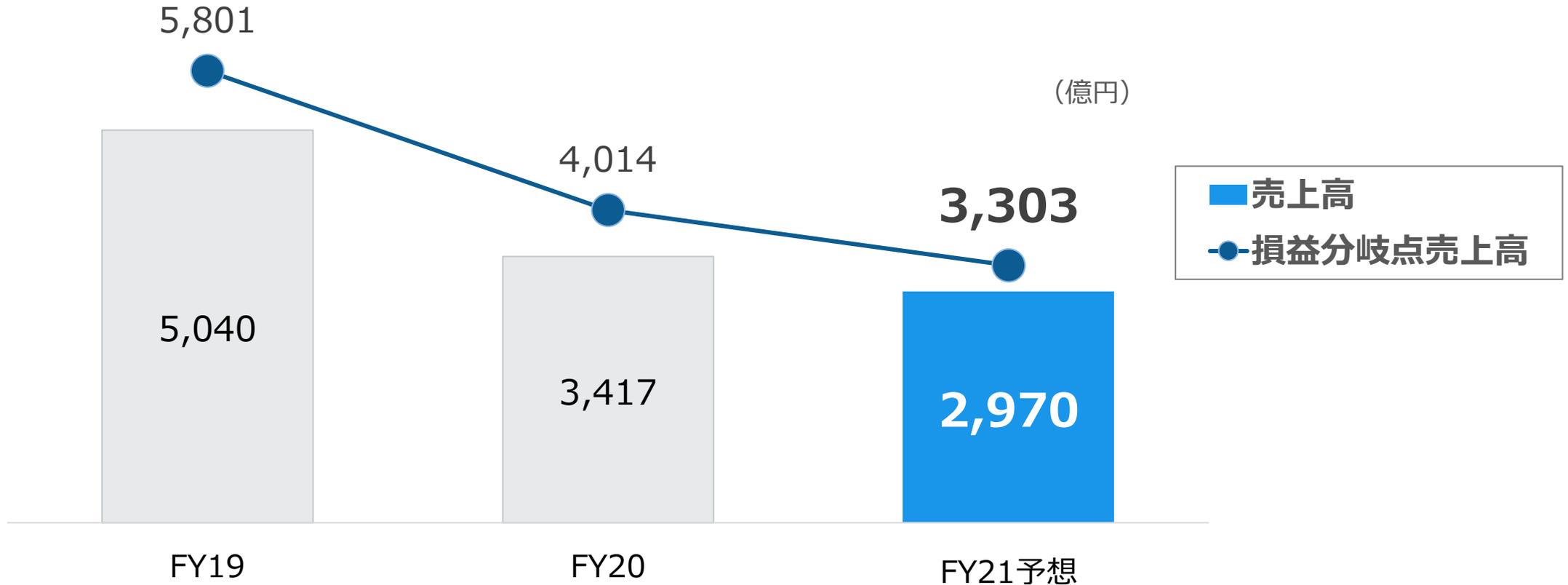


固定費の改善 [億円]

※固定費には、工場の動力費・保守費、物流費等の準変動費および準固定費を含む

付加価値・利益率の向上とコスト削減により、損益分岐点を大幅低減

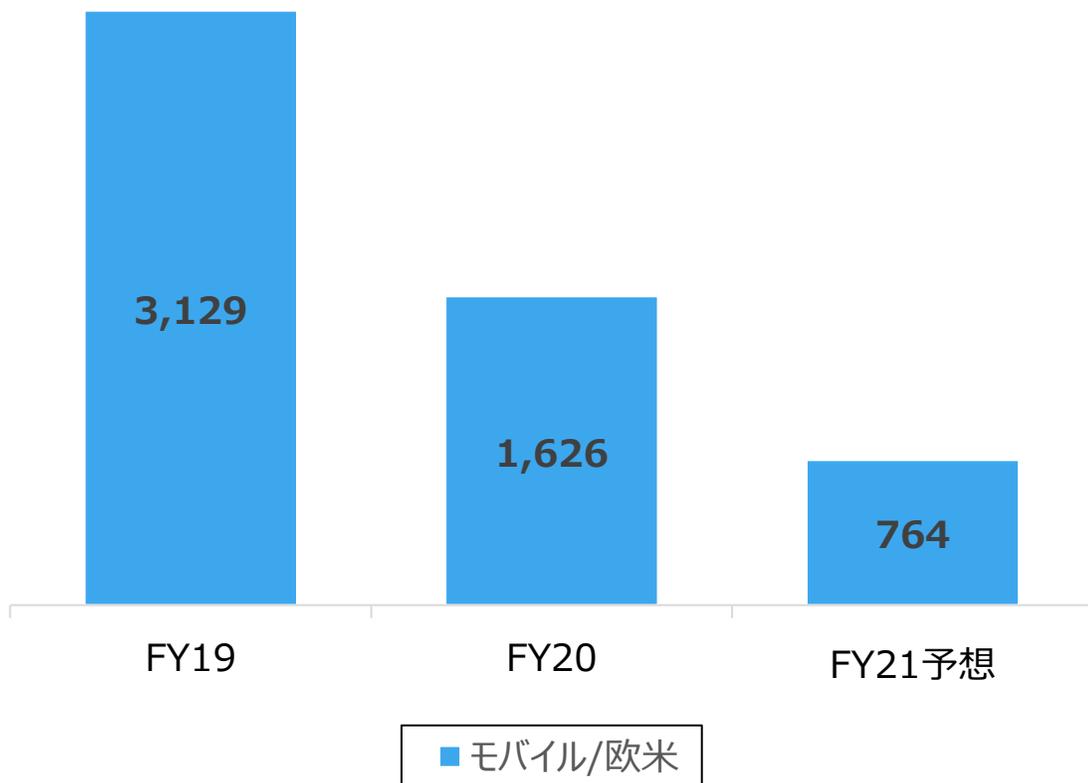
損益分岐点 約 2,500億円 引き下げ



モバイル/欧米の急減を吸収しつつ、ポートフォリオを分散化させ、より安定性の高い成長を実現

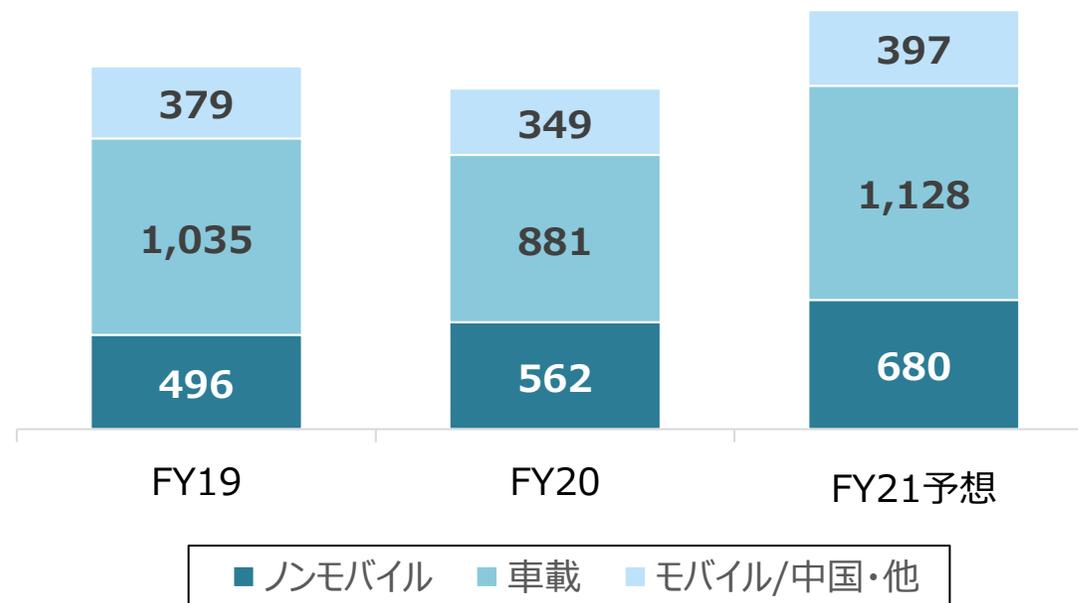
分野別通期売上高（モバイル/欧米）

(億円)



分野別通期売上高（モバイル/欧米除く）

(億円)



戦略

KPI

事業 改革

- 既存事業の建て直し
 - ✓ 結果責任を持つ組織・経営体制
 - ✓ 営業・マーケティングの強化
- 収益力の徹底強化
 - ✓ 不採算事業整理による競争力の強化
 - ✓ 多様な技術で、製品の優位性拡大

- 2021年度第4四半期のEBITDA黒字転換

事業 転換

- 新ビジネスモデル/最終製品の事業化
 - ✓ 事業転換への挑戦
 - ✓ R&Dの事業化・収益化
- 高付加価値技術の事業化

- 独自のキーデバイスを軸に、サービス、ソリューション、プラットフォーム等を2021年中に複数事業化



Japan Display Inc.

2021年度 第2四半期 業績報告
2021年度 業績予想

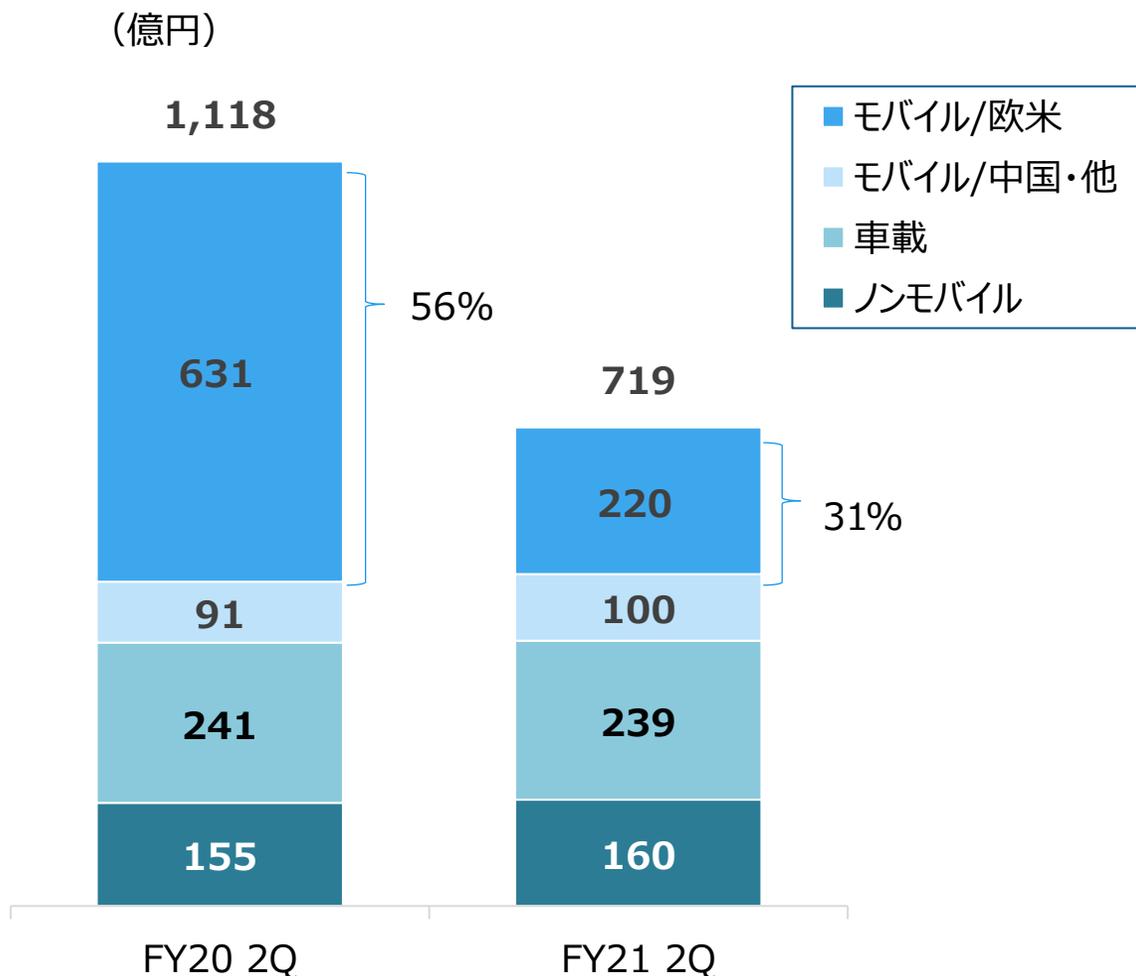
前年同期比で売上高は大幅減少も、製品ミックスの改善及びコスト削減により営業利益以下が改善。
半導体部材不足影響なければ、2Q会計期間で営業黒字化

(億円)	FY20 2Q (会計)	FY21 2Q (会計)	YoY	FY20 2Q (累計)	FY21 2Q (累計)	YoY
売上高	1,118	719	-399	1,998	1,379	-619
EBITDA	10	10	-1	△ 22	△ 28	-6
営業損失(△)	△ 29	△ 12	+17	△ 99	△ 70	+28
経常損失(△)	△ 64	△ 12	+52	△ 152	△ 76	+76
四半期純損失(△)	△ 200	△ 18	+182	△ 363	△ 88	+275
◆半導体不足影響除く						
売上高	1,118	798	-320	1,998	1,546	-452
EBITDA	10	42	+32	△ 22	36	+58
営業利益・損失(△)	△ 29	21	+50	△ 99	△ 7	+92

- 売上高は、スマートフォン用ディスプレイの需要減、半導体等部材不足の影響により、前年同期比大幅減。但し、大幅減トレンドは2Qで終了
- 損益面は、製品ミックスの改善及びコスト削減による損益分岐点低下、営業外費用及び特別損失の縮小により、営業損益から純損益までが大幅改善
- 8/5予想比で、売上高+39億円、営業損益+68億円。欧米顧客の需要増、半導体等部材不足の影響の抑制が主因

- EBITDAは、営業利益（損失）に営業費用である減価償却費及びのれん償却額を加算して算出しています。
- 四半期純利益は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を表しています。

分野別四半期売上高

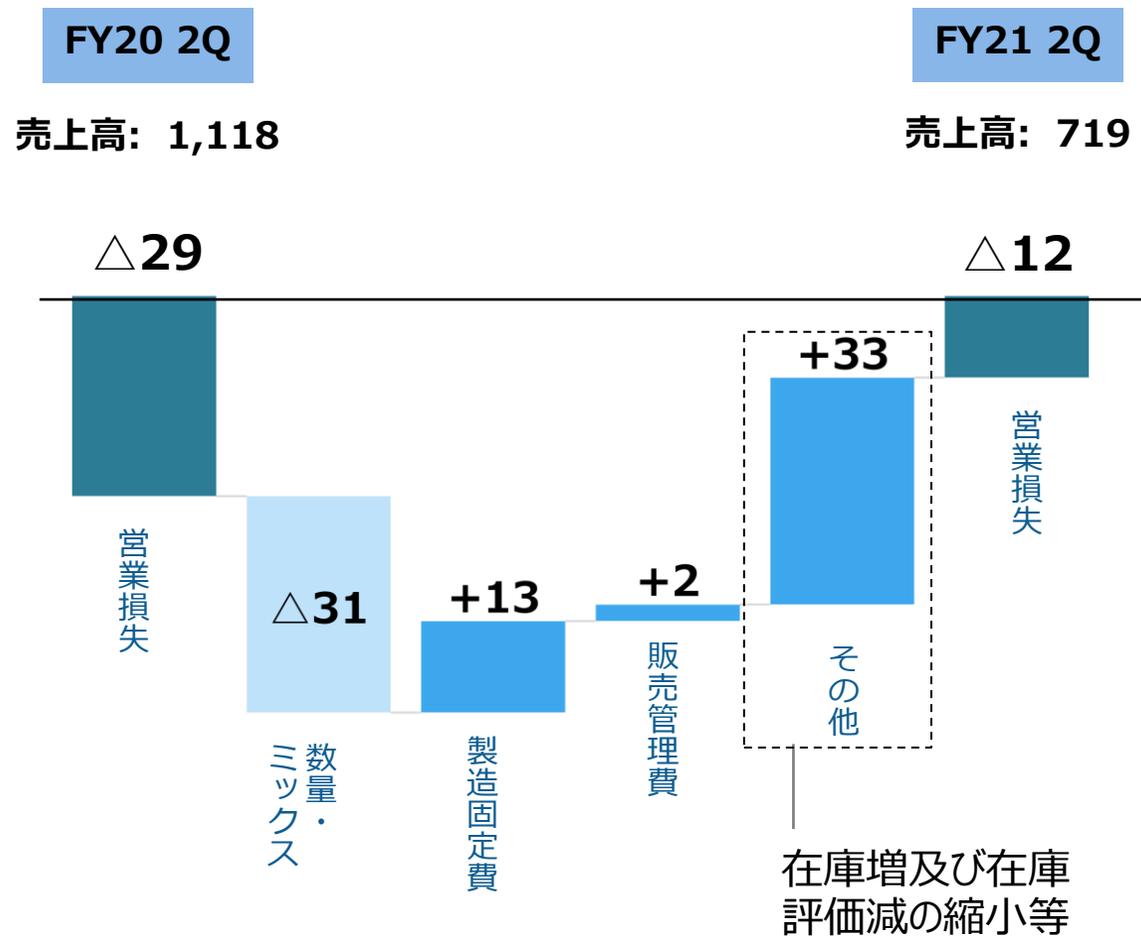


分野別売上高の状況

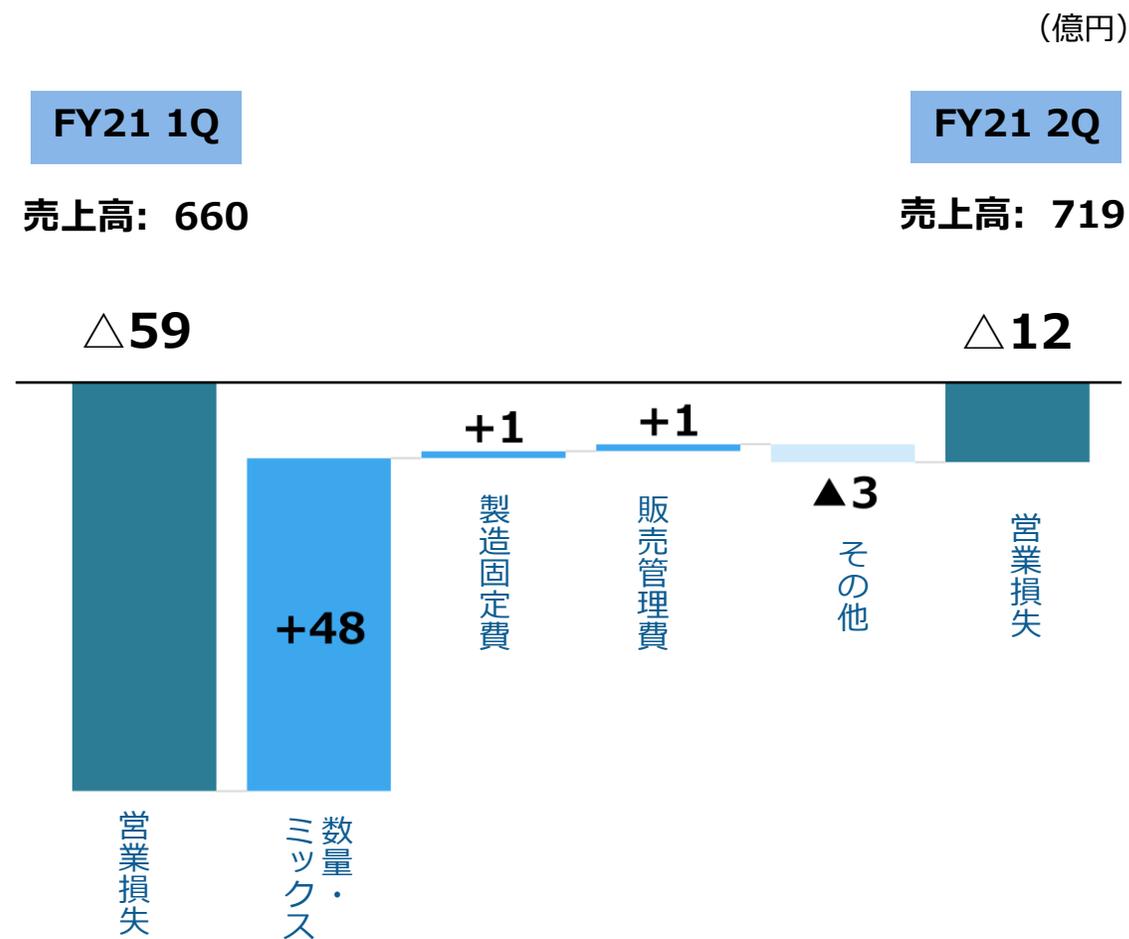
- **モバイル分野 (YoY -56%、QoQ +6%)**
 - 顧客スマートフォンのOLED採用拡大により液晶需要が減少し、前年同期比大幅減少。但し、大幅減少トレンドは2Qで終了
 - 8/5予想比+40億円
- **車載分野 (YoY -1%、QoQ +14%)**
 - 強い需要があるも半導体不足の影響大きく、前年同期並みで着地
 - 8/5予想比-11億円
- **ノンモバイル分野 (YoY +3%、QoQ +7%)**
 - ウェアラブル用OLED、VR用液晶の牽引により増加
 - 8/5予想比+10億円

FY21 2Q 営業利益 増減要因

営業利益増減要因 (YoY)



営業利益増減要因 (QoQ)



2021年度 業績予想



(億円)	FY19	FY20	FY21	FY21					<ご参考> FY21通期 ※半導体不足影響除く 試算値 (影響額)	
	通期	通期	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		
	実績	実績	(8/5予想)	実績	実績	今回予想	今回予想	今回予想		
売上高	5,040	3,417	2,800	660	719	730	860	2,970	3,199	(230)
モバイル/欧米	-	1,626	690	214	220	130	200	764	-	-
モバイル/中国・他	-	349	350	87	100	120	90	397	-	-
車載	-	881	1,060	209	239	310	370	1,128	-	-
ノンモバイル	-	562	700	150	160	170	200	680	-	-
EBITDA	△ 195	△ 125	-	△ 37	10	△ 20	3	△ 44	39	(83)
営業利益 (損失)	△ 385	△ 262	-	△ 59	△ 12	△ 40	△ 21	△ 131	△ 48	(83)
経常利益 (損失)	△ 579	△ 327	-	△ 64	△ 12	△ 44	△ 26	△ 145	△ 62	(83)
当期純利益 (損失)	△ 1,014	△ 427	-	△ 70	△ 18	△ 57	△ 40	△ 184	△ 101	(83)

- 顧客需要が引き続き旺盛である中、上半期よりも半導体等の部材不足の影響が縮小する見込みであること、為替変動を加味し、通期売上高予想を170億円上方修正
- 3Qは電力料金の上昇及び2Qの在庫増の影響等により、QoQ悪化見込みも、4Qは増収及びコスト削減効果により改善を見込み、EBITDA黒字化目標も維持

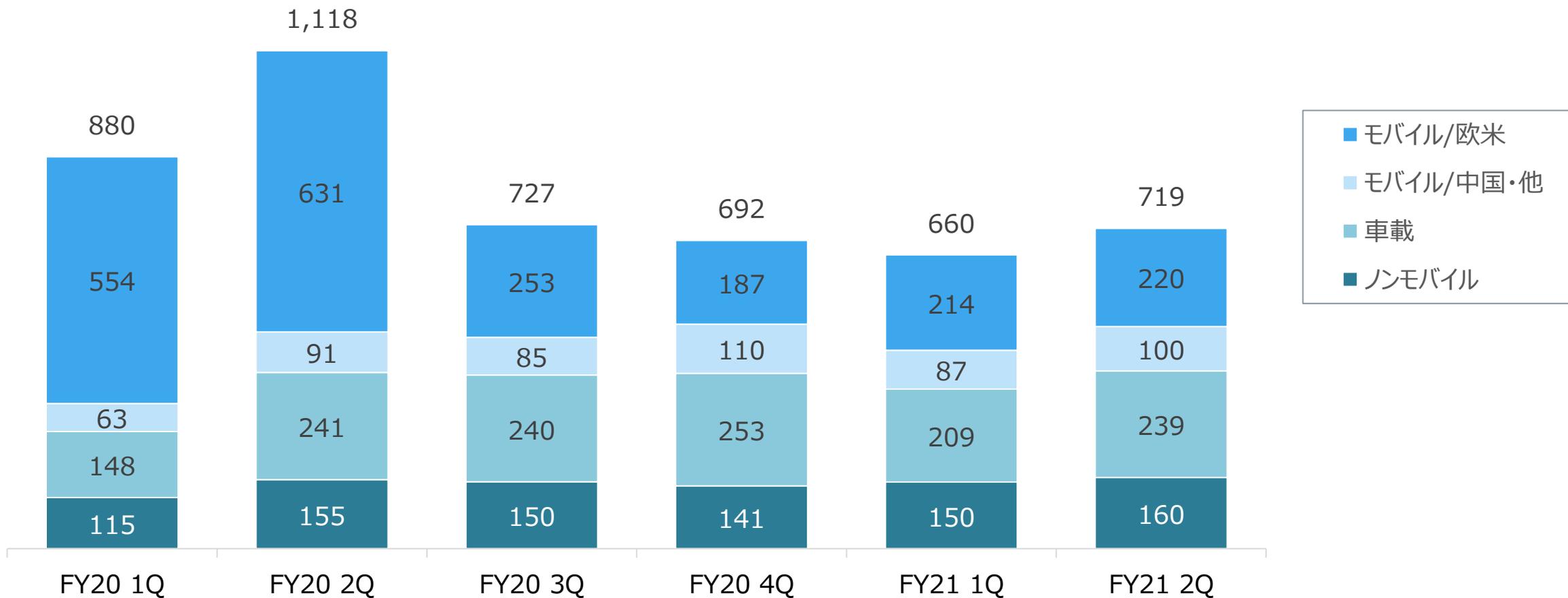


Japan Display Inc.

補足資料

分野別四半期売上高推移

(億円)



連結貸借対照表

(億円)	FY20 2Q	FY20 期末	FY21 2Q	前年同期比	前期末比
現金及び預金	498	557	493	-4	-64
売掛金	423	312	299	-124	-13
未収入金	328	153	197	-131	+44
在庫	415	397	495	+80	+98
その他流動資産	58	43	46	-11	+3
流動資産合計	1,721	1,463	1,531	-190	+68
固定資産合計	1,433	787	770	-663	-17
資産合計	3,154	2,250	2,300	-854	+50
買掛金	665	374	432	-233	+58
有利子負債	974	971	769	-205	-203
前受金	815	19	66	-749	+48
その他負債	468	467	454	-14	-13
負債合計	2,923	1,832	1,722	-1,202	-110
純資産合計	231	418	579	+348	+161
自己資本比率	6.6%	17.6%	24.1%	+17.5 ^ホ ｲﾄ	+6.5 ^ホ ｲﾄ

(注) 20年度2Q及び21年度2Qの貸借対照表の「現金及び預金」の額と、20年度2Q及び21年度2Qのキャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異、それぞれ4億円と3億円は、「預け金」です。

(億円)	FY20 2Q	FY21 1Q	FY21 2Q	前年 同期比	前四半 期比	20年度 1H	21年度 1H	前年 同期比
売上高	1,118	660	719	-399	+59	1,998	1,379	-619
EBITDA	10	△ 37	10	-1	+47	△ 22	△ 28	-6
営業利益	△ 29	△ 59	△ 12	+17	+47	△ 99	△ 70	+28
営業外損益 (△は損失)	△ 35	△ 5	△ 1	+35	+4	△ 53	△ 5	+48
経常利益	△ 64	△ 64	△ 12	+52	+51	△ 152	△ 76	+76
特別損益 (△は損失)	△ 131	△ 3	△ 1	+130	+2	△ 203	△ 4	+198
税引前当期純利益	△ 195	△ 67	△ 13	+181	+53	△ 355	△ 80	+275
当期純利益	△ 200	△ 70	△ 18	+182	+52	△ 363	△ 88	+275
平均為替レート (円/米ドル)	106.2	109.5	110.1			106.9	109.8	
期末為替レート (円/米ドル)	105.8	110.6	111.9			105.8	111.9	

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)	FY20 2Q	FY21 1Q	FY21 2Q	前年 同期比	前四半 期比	FY20 1H	FY21 1H	前年 同期比
税引前四半期純利益	△ 195	△ 67	△ 13	+181	+53	△ 355	△ 80	+275
減価償却費	44	22	21	-23	+0	88	43	-45
運転資金	102	△ 44	△ 32	-134	+12	177	△ 76	-253
前受金	△ 10	30	16	+27	-14	△ 75	46	+122
事業構造改善費用	25	0	0	-25	+0	102	0	-102
その他	49	△ 28	27	-22	+55	△ 73	△ 1	+72
営業キャッシュ・フロー	15	△ 87	19	+4	+106	△ 136	△ 68	+68
固定資産の取得による支出	△ 10	△ 23	△ 21	-11	+2	△ 32	△ 44	-12
その他	△ 5	1	0	+5	-1	△ 14	1	+15
投資キャッシュ・フロー	△ 15	△ 22	△ 21	-6	+1	△ 46	△ 43	+3
財務キャッシュ・フロー	45	△ 3	47	+2	+50	13	44	+31
期末現預金残高	494	444	490	-4	+46	494	490	-4
フリー・キャッシュ・フロー	5	△ 110	△ 2	-7	+108	△ 168	△ 112	+55

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



唯一無二の技術

唯一無二の顧客価値

唯一無二のPersonalTech企業



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。